

Dear地球民

第20号
1998年11月発行

編集発行 ゆがわら国際交流協会
☎259-0303 神奈川県足柄下郡湯河原町土肥1-7-1
湯河原町商工会内 ☎0465-63-0111



第13回

やっさ国際交流

13回目のやっさ国際交流が、7月30日より8月6日までの8日間開かれました。

今年は、初参加のカンボジアをはじめ、韓国、台湾、インドネシア、アメリカ、ブラジルの6カ国17名の留学生を迎え、涼しい夏でしたが、留学生、ホストファミリー、スタッフは、それぞれの思いで、熱い、あったかい8日間を過ごしました。

参加した学生は、初めて日本に来た人、何年か東京で勉強している人と様々でしたが、感想文にこんな言葉を寄せてくれました。「人生は、毎日が新しい旅立ち」「遠く離れた第二の我が家」また、ホストファミリーからは、「大人の留学生を受け入れた意義を感じる」「駅で留学生と会い、途端に不安は消えた」「人として核の部分は、人種、国籍、言語を超える」「世界の中の日本を意識する」といった感想をいただきました。日本のありのままの姿を素直に受け入れてくれた留学生。彼らを家族の一員としてあたたかく迎えてくださったホストファミリーの皆様。そしてスタッフの笑顔とともに、ホームステイ交流は幕を閉じました。あらためて、美しい町は、美しい心で作られていくということを確認できました。お疲れさまでした。そして、ありがとうございました。 [K. K]



万葉公園にて
ホストファミリーの富永さん(中央)を囲んで
(左から)ブラジル人研修生のジェアンドレ君、
サオリさん、ナタリアさん、エリカさん

1998 第13回やっさ国際交流

・ホストファミリーと留学生

柳沢 かおり
(吉浜)
カチ・ナタリア
(ブラジル)

秋山 里花
(土肥)
カリン・上田・美緒
(アメリカ)

高橋 榮
(吉浜)
オクヤマ・ルシア・ミチエ
(ブラジル)

露木 芳江
(真鶴)
チン・サムナン
(カンボジア)

茂田 富士松
(城堀)
ナツコ・シヅカ・ジュニー
(アメリカ)

山田 武夫
(宮下)
邱 麗君
キウ・レイクン
(台湾)

内藤 信之
(鍛冶屋)
崔 光任
チェ・クワンム
(韓国)

中村 節哉
(吉浜)
林 守澤
リン・スーテク
(韓国)

服部 壽子
(土肥)
張 智珉
サン・ヒョソ
(韓国)

露木 幹雄
(吉浜)
スナルジョ・ジュニー
(インドネシア)

前田 正義
(吉浜)
鐘 佩伶
ショウ・ハイレイ
(台湾)

岡部 勝行
(中央)
エリカ・エビナ
(ブラジル)

田代 広伸
(鍛冶屋)
H・中野・
M・ジェアンドレ
(ブラジル)

杉山 行由
(吉浜)
林 憶如 リン・イールー
(台湾)

有賀 香代子
(吉浜)
頼 欣欣
ライ・シンシン
(台湾)

橋本 経子
(吉浜)
マモセ・カルラ・トシエ
(ブラジル)

富永 勝也
(吉浜)
ハラダ・エリナ・サオリ
(ブラジル)

♥♦♣♠ 第13回やっさ国際交流スケジュール ♥♦♣♠

7/30(木)湯河原駅にて留学生を出迎え、開講式

8/1(土)町内バス見学とやっさ踊り練習

万葉公園、昇栄堂味楽庵にて和菓子作りを体験

幕山公園にて昼食、真鶴岬散策

2(日)ゆかた、ハッピー姿で「やっさパレード」参加

3(月)花火大会見学、親睦会

5(水)手作り料理を持ち寄って、お別れパーティー

6(木)閉講式(地球民認定証授与)、駅ホームで見送り

この夏のこと、きっと忘れません...

— ホストファミリーと留学生の感想文から —

はじめての経験ゆえに不安の気持ち一杯で、駅へと出迎えに行きました。その時から、どこにもない明るい空気、そして自分の子供を待っている楽しみの様子が感じられました。旅館の様子を勉強したいという頼さん(台湾)、開講式の後には、すぐそのまま私と車で仕事の買い物をし、1時間くらい色々話しながら家へ帰りました。

私の職場の中で一緒に仕事を手伝ってもらい、家族と同じ食事をしての1週間でした。頼さんには書き表すことのできない温かいものがあり、楽しい楽しい1週間でした。従業員2人、息子も同じ思いで、今も毎日、頼さんの事が話題になっています。帰りの見送りができず残念で、今も心残りになっています。

8月16日、頼さんからお礼の手紙と一緒に荷物も届きました。楽しい経験と勉強をさせていただき、ありがとうございました。〔ホストファミリー、有賀 香代子〕

ホストファミリーをはじめ、湯河原国際交流協会の方々にも、私を家族の一員のように温かく受け入れてくれて感謝の気持ちでいっぱいです。特に参加者全員が出席するところでは、他のホストや留学生との交流が深められ、よかったと思います。また、町並みの綺麗で静かな雰囲気、都会の慌ただしさを忘れ、ゆっくりと休むことができました。私のホストファミリーは、言葉通りのファミリーでした。(日本の伝統や習慣を教えてくれたファミリー)。最初は少し戸惑ったのですが、段々と溶け込んでいけて、楽しい時間を過ごせたと思います。ホストに心から感謝しています。

やっさパレードは非常に楽しい時間でした。参加者全員が楽しめる最高のイベントだと思いました。また、湯河原の町中がやっさパレードを楽しみに来ているような雰囲気も、非常にいい感じでした。そして、私が一番感激したことは、お年寄りのおばあちゃんたちがパレードが通る道の横に腰掛けながら、若者たちを応援してくれていることでした。人生は毎日が新しい旅立ちだと実感しました。

〔ジェアンドレ・中野、ブラジル〕



グッバイパーティーでは、皆でブラジルのダンスに挑戦。楽しいけれど、これがなかなか難しい。(左から)橋本さん、カルラさん、内藤さん、ナタリアさん

昇栄堂味楽庵では、室伏社長さんから和菓子作りを
教えていただきました。
「私、うまくできるかしら・・・」
台湾の邱麗君さん(慶應大学)



言葉は不十分で、細かいところまで伝わらなかったかもしれませんが、それは全く問題ないことを実感しています。親戚にスウェーデン人がいたりするので、余計にそう思うのですが... 本当に、人としての核の部分は、人種、国籍、言語などを越えると思えました。エリカ(ブラジル)は本当に良い娘で、我が家のやり方(?)に、自然に順応しつつ、自分の要求も伝えてくれました。日本人は、良い点でもあるかもしれないけど、つい相手の気持ちを思って、自分の言いたいことを言わないで我慢してしまうことが多々あります。しかし、そのことが必ずしも良い結果を生むわけではない、と少しづつ気づいているのかもしれません。

我が家の三人の子供達と一緒にあって、お腹の底から笑っているエリカを見て、親としてすごく幸せな気持ちになりました。私達の次の世代では、世界中の人々がこのようであればと、ふと思いました。このような機会を与えて下さった協会の皆様に、心から感謝致します。また長い間、裏方として支えて来られたスタッフの皆様、本当にご苦労様でございます。
〔ホストファミリー、岡部 直子〕

やっと湯河原のホームステイが始まりました。私の家族はとても親切なので、不安感が消えました。初めて私の泊まる部屋を見て、すぐ気に入りました。さすがホリデイだと思います。家族の皆さんは、忙しくても、わざわざ私のために色々な面白いを見せていただいて、本当に感激しております。彩香さん(高3)からファッション雑誌を見せてもらい、可愛い麻緒ちゃん(小5)から彼女の大好きなマンガ、アニメや人形などを見せてもらって、とても楽しかったです。そのほかに、山田武夫さんに大変おいしい料理をいただき、山田明美さんと麻緒ちゃんの美しいピアノを聴いたのは、最高だったと思います。また、山田さんから親切な日本の友達(山下さん)を紹介していただいて、一緒に遊びに行って、私の胸にいっぱいありがたい気持ちが湧きました。とにかく、今度のホームステイは、単に短い言葉で伝えきれません。湯河原に来てよかったと思います。皆さん本当にありがとうございました。最後に山田さん、お世話になってありがとうございました。本当におじゃましましたね!
〔邱麗君、台湾〕

私はほんの少ししか日本語が話せませんから、時々少し困りました。でも全体的には、とても良い経験をさせていただきました。沢山の日本語を覚えました。それから、私のホストファミリーは素敵な花屋さんなので、生け花を少し習いました。ほかの外国人留学生との交歓も良かったです。彼らのことをもっとよく知ることができたらと思います。私はとても親切なホストファミリーに恵まれ、5日間の滞在中に多くの建設的な事柄を学んだと思います。

[ナツコ・シノヅカ・ジェニー、アメリカ]

7月30日、駅出迎えのカードを、春菜(小5)が作成しました。春菜の作ったイメージ通りの可愛い娘が駅に着きました。すぐに子供達とも打ちとけて、安心しました。開講式が終わり自宅に着くと、姪が夏休みで遊びに来たような感じで、とても楽しくなりました。チェちゃん(韓国)も安心したらしく、グッバイパーティーの支度をするのにキムチを作りたいと言って、自分の持って来た材料を出して、お父さんと白菜と一緒に漬けていました。準備OKとなると、後はあちらこちらと出掛けて行きましたが、海は特に喜んでいました。私も久し振りに下田の友達に逢えて嬉しかったです。時折り、国際交流という事をわすれる程でした。1週間ありがとうございました。

スタッフの皆さん、お疲れ様でした。

[ホストファミリー、内藤 妙子]

ゆがわらは自然がいっぱいあって、きれいな所です。それに、人々もみんな親切で、いつも笑顔を見せてくれました。いろいろな日本人達といろいろな留学生と行動して、いろいろなちがう考え方やちがう意見などを聞く機会がありました。

8日間、日本人の家におじゃまして、日本の家庭の雰囲気味わって、日本の文化とか日本の習慣がよく分かってきました。ここに来る前に少し心配しました。なぜなら、カンボジアという国は世界で一番びんぼうな国なので、そんな国から来た人は、ほかの人にいじめられるかもしれない、などと考えました。けれども本当はちがって、とてもうれしかったです。ゆがわらでのホームステイに参加して、よい経験ができました。

[チン・サムナン、カンボジア]



やささを踊るサムナンさん(河合塾国際教育センター)は、プノンペン出身。母国では、中学校の歴史の先生です。

幕山公園にて。「お母さんのお弁当は最高だね。」
(左から)鐘 佩伶さん(台湾・三日本語学校)
ジェニーさん(インドネシア・文化外国語専門学校)
張智姦さん(韓国・三日本語学校)



私は今年で2度目のホストファミリーでしたが、去年と同じように楽しい一週間を過ごすことができました。毎年ブラジルから来る留学生はとても明るくて、私は、ますますブラジルという国に行ってみたくになります。外国で、自分とは違う言語を話し、生活してきた人を家庭に受け入れることは、決して簡単なことではありませんが、それ以上にとっても興味深いことです。このようにホストファミリーをやってみて、遠い国であるブラジルを、とても近くに感じることができるようになりました。今回、私の家にホームステイしたルシアは、年齢も近く、共通の話題もあって、本当に友達感覚で接することができました。東京から私の友人が来て、わいわい騒いでいるうちに、あっという間に過ぎていった一週間でしたが、とても充実していたように思います。

〔ホストファミリー、高橋 朋子〕

気ぜわしく少々気構えた私が、湯河原の駅で出迎えた守澤さん(韓国)の、清潔感のある笑顔で、急に気持ちが楽になっていったことを覚えています。説明会で渡された身上資料が彼の現在を識るものではなく、たいそうに立派な経歴を持った大人である、ということが記されたものだけだったからです。日本語がまだ不自由な守澤さんと私は、幸いなことに、友人や、昨年私の娘になってくれた留学生のアンサーの助力があって、この一週間が大変短く思える程、楽しい忙しさに追われて過ごすことができました。

礼儀正しく、遠慮深い彼の本音や好みを数字で表現する方法を発見したことが功を奏して?「ケンチャナヨー、気にしない」の連発で、笑いころげる場面が度々あったりで、いささか我が家のペット達は迷惑したことでしょう。が、一方では、お互いの国の政治問題やポリシーを、訪問してくれた友人達と、また私たち家族と、度々真剣に夜の更けるのを忘れて語り合い、大人の留学生を受け入れた意義を強く感じています。政治の志を語る時の、彼の目の力強さに、隣国の明日が羨ましいものに思えたりしました。

〔ホストファミリー、中村 てる子〕

私はゆがわらのホームステイに参加して、ほんとうに楽しかったです。ゆがわらに来る前には少し心配でしたが、ここにいる間、ホストファミリーや、やっさのスタッフや友達などが、みんなやさしかったので、安心しました。ゆがわらの景色も東京よりずっときれいなので、それを見ると心が広くなりました。それに日本と他の国の文化も、もっと知ることができました。そして、たくさんの人にお世話になって、どうもありがとうございました。とにかく、ゆがわらのホームステイは、とてもいいプログラムです。いい印象も残っています。よかったら、またゆがわらに遊びに来たいです。

〔スナルジョ・ジェニー、インドネシア〕

今回のホームステイは驚くことばかりでした。留学生のカレンと私は、誕生日も一緒、左ききで性格も食べ物の好みもよく似ていました。アイスクリーム屋さんで、二人して同じフレーバーのアイスを探していたのにも驚きました。何もかもが似すぎて、まるでもう一人の自分を見ている様でした。きっとカレンの亡くなったお母さんが、私たちを会わせてくれたんだねと、二人で驚きながらも感謝していました。

今度は私が9月にアメリカに行く時に、途中で彼女の家でホームステイさせてもらうことになっています。とても楽しみです。7日間という短い時間ではありましたが、私はカレンとの出会いにとっても感謝してます。ありがとうございました。

〔ホストファミリー、秋山 里花〕



⇐
 駅でホストファミリーの杉山さんの出迎えを受け笑顔の林 憶如さん(台湾・JET日本語学校)。4歳の由くんにとっても、いい夏休みになったことでしょう。



⇒
 小田原の卯月さんのご協力で、留学生全員に鎧兜を着付けていただきました。凛々しく(?)ポーズをとる、韓国の林 守澤さん
 (松下政経塾)

国際理解講座



「美しい国の厳しい現実、ネパール」

講師：ネパール教育支援の会 神保 映先生

第二の人生をネパールに求めて

人生を二回楽しみたいと決意し、家族の了解を得て、ネパール国を半年毎に往復し、四年目を迎えた。本年55歳のフリーのボランティアとして、長年の教師の体験を生かし、なにが出来るかを問うことがそもそもの動機だった。

海外で生活を始める時は、事前に外国の事情を予め十分に調べることは、何処の国でも同じだが、滞在ビザの取得の困難な事、生活慣習の違い、言語の問題、日本人向けの特別価格、等等。幸い現地で人を得ることが長期滞在の必要条件で、それでも一年かかった。

ネパールとはどんな国なのか

「寒い国での生活は大変ですね」エベレスト山の麓のイメージで、よく言われるが、地球儀で見ると、奄美大島と同じ緯度で、気候、温度が大体同じと考えてよい。人口は1800万人、面積は北海道の2倍。代表的な村落の生活振りを、今でも残しているアルポト村のスライドを見せて戴いた。電気、トイレも無い村で、そこのサンタ・ラマさんと兄弟の契りを結ぶ儀式をするために、二度目の訪問をした。

協同体としての暮らしが基本

日本では既に失われつつある協同体の基本に、子育ての協同体、老人介護、農作業の協同体がちゃんと機能している。例えば、若い夫婦が農作業に出る時には、五歳の子供が留守番をし、年寄りや妊婦で働けない家で面倒を見る。孤独な老人はいない。尊敬もされている。古老による農作業時期の助言、トウモロコシでお礼をする。莫産、袋、縄などの多くは共同製作。日本のような建前論ではなく、現実に存続している。

ラマ族は200年前に現在の王様の先祖に支配されてきた。ヒンズウ教を押し付けられたが、仏教を信じつづけて、インドに現存しているカースト制でまるごと低い身分差別に位置付けられた。その結果、より強く助け合い、自分達の生活を守ってきたのだろう。

しかし、残念ながら若者達は変化の乏しい生活に夢が持てなく、耐え切れなくなるのは時代のせいで、このような協同体のスタイルも薄れて行くのだろう。

職業選択の狭さ

グルカ兵……王朝を一部のカースト制が支えている。兵隊にも簡単になれない。
出稼ぎ……収入を得るため、首都のカトマンズ市に出ても、得られる仕事はポーター、皿洗いぐらいしか収入の途はなく、身体の丈夫な若者は香港あたりまで出稼ぎに出ている。第二外語として英語が出来るので、その人達は少しはましな生活が得られる。



ネパール教育支援の会が援助している学校EPHC（カトマンズ）。路上生活、貧困家庭の子供に、初等教育、医療活動、給食支給、職業訓練がなされている。写真は、子供たちと日本からの訪問団。

＝ ＝

神保先生の結語

現地の人々が願う外国からの支援は、カトマンズ市は別として、コンクリートの道路ではなく、吊り橋が欲しい、電気、病院も欲しい。電気が入れば、テレビが入るだろう。テレビが入れば、協同体の生活は崩壊するかもしれない。しかし、私情ではなんとも言えない問題だ。今地球上で残されている数少ない秘境のような土地柄、民族、宗教の対立のない平和なネパールを愛するが故に、なんとかして教育の面からでも御手伝いを続け、ストリート・チルドレンの問題解決に少しでも役立てたいと思う。

所感

私のネパールへの印象は、かつての勇猛果敢な山岳兵として、日本軍をビルマ戦線で苦しめたグルカ兵の思い出がある。大戦後もとの平和なネパールに戻ったスライドを見せて戴いたが、さんざんネパールを利用した英国の姿はなく、日本が最大の支援国になり、その歴史の変遷を現実に見て、感に堪えないのである。

支援の状態は、受ける側の要望に答えているのだろうか。与えることは、先生のような愛が、どのようにして行き届くか、その配慮があるかないかの違いだろう。恵んでやるという態度が出ない事を望みたいものだ。

貴重なお話を聴かせていただき、この世にあまり急速な変化を求めない国があり、地球の広さを実感した。

最近の情報では、ネパール国は、年間30,000人のヒマラヤ山系（エベレストを含む）登山隊にビン入りの飲料の持ち込みを禁止した。環境汚染が大きな問題になり、このような処置を採らざるを得ない事になったらしい。自然を守る問題も地球規模になってきた。

〔石井 宏樹〕



☆神保 映(じんぼ うつる)先生プロフィール

1943年東京生まれ。湯河原・小田原で28年間、教員を勤める。現在、ネパール教育支援の会(NESA)事務局長。1年の半分をネパールで暮らす。

NESAの理念は、「ネパール人の児童養護施設が、ネパール人の手で自主運営できる」こと。お金や物をただあげるだけでなく、相手の自立に重きを置いた支援を目指している。現地での活動のほかに、日本からのネパール学習ツアーも実施している。

お問い合わせ／入会申し込み

☎259-0312 湯河原町吉浜1935 神保方 ☎0465-62-9858

(左写真)

ネパールの典型的な農村、アルボト村の風景。
山の急斜面に段々畑がしがみつく。

NESAホームページ <http://www.daito.ac.jp/~hiro/Nesa.html>



【活動報告】

外国語講座

英語..... スーザン・フェイナー先生 8月より月曜10回

中国語..... 李 平(リ・ヘイ)先生 9月より月曜10回、開催しました。

【お知らせ】

'98クリスマス会

恒例のクリスマス会を12月22日(火)夜、ゆがわら童夢にて予定しています。

チャリティー・オークションをしますので、是非品物のご協力を！(不要品で可)

NGO便り

'95、'96年のクリスマスオークション売上金の一部を、アジア交流研究所を通して、スリランカへ寄付してありましたが、現地NGOギャミ・セワ協会より、プロジェクトの経過報告がありました。この協会は、キャンディ県を中心に農村の連帯づくり、貧困家庭の生活向上を目的に設立されたNGOです。私たちの寄付金は、内戦下で苦しい生活を送っている、未亡人らの職業訓練に役立てていただきました。また、キャンディの村の幼稚園建設にも協力しました。園舎には、「すべての子供に明るい未来を ~ゆがわら国際交流協会」と英語で綴られたプレートがはめ込まれています。